

9月の議会では昨年度の決算を確定しました。9億円以上のお金を使いきれず残りました。余りすぎです。減税するか、困っている人に使ってほしいと加藤は藤岡市長に訴えました。また一般質問では、「誰ひとり取り残さない社会を」のテーマで、多文化共生と子育て支援について質問しました。

多文化
共生

デジタルを活用した
みんなに優しい社会の実現を

共生社会の実現には、誰もが情報に等しくアクセスできることが重要です。しかし、外国人市民には言葉の壁があり、情報伝達が困難な場合があります。デジタル技術は、この壁を乗り越える可能性を持っています。一方、やみくもなデジタル化には問題もあります。どのようにデジタルを活用すべきか、議論を行いました。

① 自動通訳ツールの活用と日本語教室の意義



外国人市民を支援する民生委員等に対して、市が保有する自動通訳端末を貸し出せるようにすべき。

市の規定上、貸し出しは可能。希望に合わせて利用できるよう民生委員等に周知をする。



市長



自動通訳技術が普及する中で、日本語教室を行う意義は。

地域の日本語教室は単に日本語を学ぶだけではなく、次のような価値をもった場所である。

- ①外国人市民のつながりを作り、居場所となる
- ②機械では翻訳できないニュアンスを身につける
- ③お互いの文化や風習を知る機会を得る



② 学校のお便りは紙かデジタルか？



外国人の保護者等、お便りをメールやLINEで受け取ったほうが読みやすい方もいる。紙で行う意味は？

現在、外国人児童のいる学校をモデル校に、翻訳機能のあるメールソフト活用の実証実験を行っている。紙のお便りの意義もある。教室でお便りを配布する際に、児童生徒にもその要点を伝えながら配布している。それぞれの媒体の良さを活かして使い分けていく。



教育長

個人報告会を開催します

- 黒川本村(公) 10/24月 13:30-
- 竹原野(公) 10/19水 19:30-
- 緑ヶ丘(高) 10/24月 19:00-
- 小野(公) 10/20木 10:40-
- 奥銀谷(コ) 10/27木 10:40-
- 新町(公) 10/30日 9:30-
- 猪野々(公) 10/29土 19:00-
- 福祉センター 10/29土 9:30-
- 6区コミセン 10/31月 19:00-

加藤の活動を報告し、皆様のご意見を頂戴します。お気軽にご参加下さい。

令和3年度決算

収入が226億円、支出が215億円。差引の11億円から、2億円を次年度に繰越して、9億円の実質収支額(黒字額)。黒字の割合を示す実質収支比率は7.43%。3~5%が標準と言われる中、過剰であるといえる。

自動通訳ツール

専用端末型とアプリ型がある。市では26台の専用端末を所有。市役所窓口や学校等で活用。

あさご日本語教室

毎週火曜日夜に山東支所で開講。8月にはお国自慢発表会を開催。学習者の出身国の観光名所や名物料理を披露しあった。

外国人保護者とお便り

日本語のお便りを読むのが難しい保護者がいる。紙ではなくてメールで受け取ったほうが、翻訳アプリを利用しやすい。

学校・保護者間の通信手段

朝来市内の小中学校で「さくら連絡網」を導入。メールやLINEで保護者に連絡ができる。ほぼすべての保護者が登録。現在は、緊急時の一斉連絡に限って使用をしている。公立こども園でも今年度WiFi環境を整備し、メール等で保護者にお知らせできるシステムを導入予定。

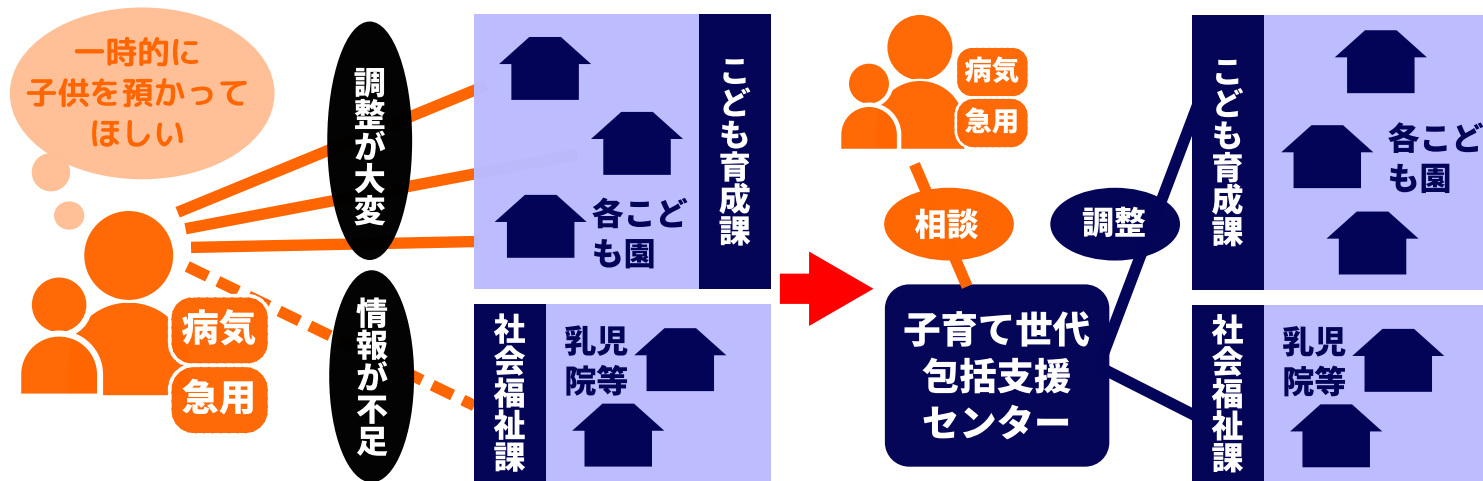
子育て支援

一時保育の充実と 分かりやすい情報発信を

朝来市の子育て支援は充実しています。しかし、情報提供には不足があります。必要な支援に行きつかず苦しむ方がいます。

① 緊急性が高い一時保育について、調整の負担を減らしてほしい

家庭で子供の保育をしている方が、一時的に保育が困難になった場合、支援が必要です。保護者は各こども園もしくは社会福祉課へ個別に相談をしますが、断られることもあります。ここには、調整が大変であること、支援の全体像が分からないことの2つの問題があります。緊急時には、子育て世代包括支援センターが一時保育の調整の窓口となるべきと加藤は提案しました。



② 必要な支援に行きつくよう、各部署が連携した情報提供をしてほしい

どこに問合せをしても、包括支援センターを中心に必要な支援を提供すべきです。それぞれの部署や情報ツールに対して、情報提供の仕方の改善を求めました。

問合せ先

子育て世代
包括支援
センター

市内各
こども園

子育て
ガイドブック

朝来市
ホームページ

説明

妊娠から育児まで、総合的に相談を受け付ける窓口。助産師や保健師等の専門スタッフがいる。保健センター内に設置。

一時保育で、多くの保護者がまず思い付くのはこども園での預かり。園に直接申し込む案内になっている。



市の子育て支援・情報一覧の冊子

令和5年4月にリニューアル予定。現在は、各担当課ごとに情報を掲載。子育て情報をまとめたページが存在しない。

良い所

いろいろな支援に結び付けてくれる

身近な相談相手である

すべての知識が集まっている

身近にアクセスできる

課題

相談先として認知度が低い

他部署の事業までつながりづらい

一時保育の問い合わせ先が各担当課・各こども園となっている

情報が分散して分かりづらい

加藤の
提言 分かりやすい
愛称をつけるべき

他部署の事業についても研修を行うべき

支援センターの連絡先を案内に併記すべき

リニューアルに際し、子育て特設サイトを設けるべき

市の
回答 市民の声を聞いて
検討したい

誰に尋ねても適切な支援につながるよう研修を行いたい

一時保育の案内には支援センターと育成課の連絡先を併記する

特設サイトの設置も含め、見やすいページ作りを検討する

加藤たかゆき後援会

〒679-3322

朝来市生野町奥銀谷1513

電話 079-666-8848

Fax. 079-244-1259

takayuki1983@gmail.com



LINEで
お気軽に
ご相談を



一般質問
映像
配信中!